

作成日 2020年11月30日

改定日 年 月 日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

製品名	アクティヴテクス AS151
会社名	株式会社アサヒ産業
住所	埼玉県川口市朝日4-21-62
担当部署	品質保証部
担当者名	諸岡 厚志
電話番号	048-227-5121
ファックス番号	048-227-5122
整理番号	SDS2020-0029

### 2. 危険有害性の要約

(表裏面材)

GHS分類 物理化学的危険性	:	GHS分類に該当するデータなし
健康に対する有害性	:	生殖毒性; 区分1B 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露); 区分2「H335 呼吸器への刺激のおそれ」 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露); 区分2「H372 長期にわたる又は反復ばく露による神経系、呼吸器の障害」
環境に対する有害性	:	水生環境急性有害性; 区分2「H401 水生生物に毒性あり」
GHS分類に該当しない他の危険有害性	:	ポリ塩化ビニル自体に危険有害は無いが、高温で長時間加熱時に発生する塩化水素ガスなどは皮膚、眼、喉などを刺激することがある。

(ポリエステル繊維クロス)

GHS分類 物理化学的危険性	:	GHS分類に該当するデータなし
GHS分類に該当しない他の危険有害性	:	なし

(共通項)

GHSラベル要素	:	
絵表示	:	該当無し

注意喚起語	: 該当なし
危険有害性情報	: H 3 3 5 呼吸器への刺激のおそれ
	: H 3 7 2 長期にわたる又は反復ばく露による神経系、呼吸器の障害
	: H 4 0 1 水生生物に毒性あり
注意書き	: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取り扱い後は手洗いなどを行なう事。

### 3. 組成及び成分情報

(表裏面材)

単一製品・混合物の区分 混合物

一般名 可塑化ポリ塩化ビニル

主要原料・添加物	CAS No.	含有量 (%)
主要原料：ポリ塩化ビニル	9002-86-2	20 - 60
付加剤：フタル酸ジイソノニル	28553-12-0	15 - 40
付加剤：エポキシ化大豆油	8013-07-8	8 - 30
付加剤：リン酸系可塑剤	非公開	8 - 30
付加剤：顔料	非公開	3 - 15
付加剤：難燃剤	非公開	8 - 20
付加剤：無機充填剤	非公開	8 - 20
付加剤：複合安定剤	非公開	> 6
添加剤：添加物	非公開	> 6

※ポリ塩化ビニルには、高懸念物質である「フタル酸ジイソノニル」を含有しているが、「意図的な放出」はなく、危険性は極めて小さい。

(ポリエステル繊維クロス)

単一製品・混合物の区分 収束剤／結合剤を含む単一製品

一般名 ポリエチレンテレフタレート繊維

主要原料・添加物	CAS No.	含有量 (%)
主要原料：ポリエチレンテレフタレート	25038-59-9	> 99

### 4. 応急措置

吸入した場合 : 通常の使用で吸引することはないが、加熱または燃焼などによって生じるガスを吸入した場合は直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にする。その後異常があれば医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合	: 通常の使用で付着する事はないが 高温時に熔融した状態で発生したガスの凝固物が付着した場合、大量の水を掛け十分に冷却させ、医師の診断を受ける。付着した凝固物を無理に剥がしてはならない。
眼に入った場合	: 眼に入った場合、清浄な水で洗い流すこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外し、その後も洗浄を継続すること。もし眼の刺激が継続するようであれば医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	: 水で口の中を洗浄し、症状によっては医師の診断を受ける。

---

## 5. 火災時の措置

適切な消化剤	: 消化器（粉末・泡沫・炭酸ガス）、防火砂、大量の水
使ってはならない消化剤	: 棒状注水
火災時の特有の危険有害性	: 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガス（塩化水素ガスなど）を発生するおそれがある。
特有の消火方法	: 不完全燃焼時には、黒煙が発生するので、閉鎖された場所における消火にあたっては、酸素ボンベ等の呼吸に必要な酸素を供給することができる装備をした上で消火作業を行なう必要がある。
消火を行なう者の特別な保護具及び予防措置	: 呼吸用保護具を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 鼻や口からの摂取、眼に入らないように留意する。
保護具及び緊急措置	: 特に保護具などは必要ない。
環境に対する注意事項	: 環境においては長期間分解せず、環境汚染の原因となるため、河川などに放出しない。海洋生物、鳥類が誤って食べることがあるので、いかなる海洋や水域にも投棄、放出をしてはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 地面や床面に落ちた場合、足下を滑らせる危険があるので、速やかに掃き集める。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱いや設備での注意	: 禁煙、周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。眼や皮膚に触れたりしないように必要に応じ手袋、保護眼鏡（ゴーグルタイプが望ましい）、粉じんマスク（国家検定品）を使用する。
保管上の注意	: 指定可燃物（合成樹脂類）に該当するため、火気厳禁。雨水などがかからないように注意する。直射日光、白熱灯や水銀灯等高温や強い紫外線を出す照明の近くには保管しない。また保管場所は施錠して保管する。

概要	: 適切な取扱いを行なう限り、人体に悪影響を及ぼしたという報告は、これまででない。
毒性	: 適用されず。
人体への影響	: アレルギー体質の方は、接触により皮膚障害を起す可能性あり。必要に応じて、触れた箇所を石鹸にてよく洗浄する。症状によっては医師の診断を受ける。
高温時作業の注意	: ポリ塩化ビニルは100℃以下の取り扱い温度条件では意図的な放出もなく人体への有害性は無いと考えられているが、120℃以上の高温で取り扱う場合、揮散化蒸気または分解生成物の吸入などによって眼、鼻、喉に刺激を感じることがある。刺激が持続する場合、直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にする。その後異常があれば医師の診断を受ける。

## 8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等	: R o H S ; DEHP (フタル酸ジニエチルヘキシル) 1000ppm 以下
設備対策	: 通常の手取扱いでは問題ない
保護具	: 通常の手取扱いでは問題ない

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: やわらかいシート状
色	: 白色
臭い	: わずかな臭気
融点	: 255℃ (ポリエステル繊維)
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 情報なし
可燃性	: あり
引火点	: 391℃ (ポリ塩化ビニル) ; 引火温度
分解温度	: 情報なし
pH	: 該当しない
溶解度	: 水に不溶
蒸気圧	: 情報なし
密度	: 1.3 ~ 1.5 kg / m <sup>3</sup>
粒子特性	: 情報なし
比重 (相対密度)	: 情報なし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の手取扱いにおいては安定である。
化学的安定性	: 一般的な貯蔵・取扱いにおいては安定である。

危険有害反応可能性	: 一般的な貯蔵・取扱いにおいては安定である。
避けるべき条件	: 高温に曝されると、分解し可燃性ガスを発生する。
混触危険物質	: 火気に近づけない。 : 強酸化剤と接触させない。
危険有害な分解生成物	: 燃焼時により塩化水素ガスなどの有害ガスが発生するおそれがある。

#### 1 1. 有害性情報

急性毒性	: 知見なし
皮膚腐食性／刺激性	: 知見なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 知見なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 知見なし
生殖細胞変異原性	: 知見なし
発がん性	: 知見なし
生殖毒性	: 区分 1 B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 区分 2 「H 3 3 5 呼吸器への刺激のおそれ」
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: 区分 2 「H 3 7 2 長期にわたる又は反復ばく露による神経系、呼吸器の障害」
誤えん有害性	: 知見なし
危険有害な分解生成物	: 燃焼時に塩化水素ガスを発生する（ポリ塩化ビニル）

#### 1 4. 環境影響情報

生態毒性	: 水生環境急性有害性；区分 4 0 1 「水生生物に毒性あり」
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

#### 1 5. 廃棄上の注意

廃棄の方法	: 各自治体の条例に従って焼却などの処理を行なう。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。
-------	--

#### 1 6. 輸送上の注意

注意事項	: 転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に 行なう。水漏れ、高温放置、直射日光を避ける。
米国の道路・鉄道法令情報	: 該当しない
国際海上（IMDG）	: 規定に従う
国際航空（ICAO／IATA）	: 規定に従う

## 17. 適用法令

- 1) 消防法 : 「指定可燃物」合成樹脂類（3000kg以上）に該当する。
- 2) 労働安全衛生法 : 該当しない
- 3) 毒物及び劇物取締法 : 該当しない
- 4) 産業廃棄物 : 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

---

## 18. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性などに関しては、いかなる保証をなすものでもありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

### 【参考文献】

- 「日本化学会 化学防災指針集成（1996）」
- 「国際化学物質安全カード（ICSS）日本語版（1997）」
- 「製品評価技術基盤機構（NITE）HP」
- 「産業中毒便覧（医歯薬出版）Registry of Toxic Effects of Chemical Substances」
- 「既存化学物質ハンドブック」
- 「プラスチックデータハンドブック」工業調査会（1980）」

### 【参考資料】

- 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 : GHS分類結果データベース
- 安全衛生情報センター : GHS対応モデルMSDS
- GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成基準（JIS Z7253:2019）